ミーカ用もカかのな応も信け 童人学高な着。 どと感定ュシ、能に等ら変やすのをま・ひぶめ学さ もりや感ニョ情力生、の化かる力身す 生と意、カせ 一の自、ン報、きこ社にに子とに。 徒り欲確をま 人正己自	外国語の育成等 科学の一次 は と で で で で で で で で で で で で で で で で で で	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:660%未満であった。 4:致置教室を使用する全正規教員が週1回以上 (5円 8 行物以上の財政教員が行った。 1:60%未満であった。 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上 (5円 8 行物以上の世界教員の週1回以上活用し (5円 8 行物以上の世界教員の週1回以上活用し (5円 8 行物以上の世界教員の週1回以上活用し (5円 8 行物以上の世界教員ので行った。 3:80%以上で行った。 3:80%以上で行った。 3:80%以上の教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 4:全教員が毎日行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 4:全教員が毎日行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 4:全教員が毎日行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 3:80%以上の教員が働きかけた。 4:学期に1回は知らせた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 1:60%以下の教員が働きかけた。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が働きかけた。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が同答した。 3:80%以上の教員が同答した。 3:80%以上の教員が可答で行った。	4 4 4 4 4	【ト 「学いがえ 鬼子」 と学すい合 と学すい合 り0%以未 名: 85%以以未 2: 80% よ 2: 80% よ 3: 8539 ア んし答 ア んし答 ア んし答 ア んし答 ア んし答 ア んし答 ア んし答	3 86%	て達成日標を示した。今後はICT機能の系統的な指導と今までの指導突践をもとに継続し関する月日人権に関する月日人権に関する月日人権に関する月日人権に関する月日人権と関する日本で、大大連を関する日本では、大大連を関するというでは、大大連を関するというでは、大大連を関するというでは、大大連を関するというでは、大大連を関するというでは、大大連を対して、大大連を対して、大大連を対して、大大連を対して、大大連を対して、大大連を対して、大大連を対し、、は、大大連を対し、大大地では、大大地が、大大地では、大力が、大大地が、大力が、大力が、大力が、大力が、大力が、大力が、大力が、大力が、大力が、大力	A B C D A	2 2	○ 物事の表面的なことだけでなく、理論・基になってる考え方などを、しっかり身につくような教育をしていと思う。 ○ コロナ禍の中でたいへんな状況の中、充分な成果た思う。 協調性など基本が学べている。 ○ 外国語教育について:世界的レベルで見ると、日本の語学レベルは低レベルにあると思われる。国際化の世界の中で、若年層の語学力を早急に向上させることを望む。 ○ 小学生全般に言えるが、教えはたいへん大事であるただ個々の大事を引える思考力向上教育を更に考慮していたに個々の表える思考力向上教育を更に考慮していた。 ○ コミュニケーションがとれない子どもたちが多い中で、協働力を感じる。 ○ ICT推進により、マット運動やとび箱などでもタブトを活用して学習しているところに、教員の方々の苦熱意を感じる。 ○ コロナというな成果が出ていると思う。 ○ 子どもから学校が楽しいと聞く。子どもの育成につて充分な成果が出ていると思う。 ○ 児童同士のコミュニケーション能力が非常に高く、生の導きにより課題解決ができている。 ○ 「CT機器は、動画など児童が興味を引くコンテンツ、育的にも有効かと思う。また体育指導に用いられるのいと思う。ただし、その基礎にある理論が身につくよ配慮してほしい。 ○ ICTの活用で、その計算をはいる。
ーカ用もカかのな応も信け 童人学高な着。 どと感シ、能に等ら変やすのをま ・ひぶめ学さ もりやっ情力生、の化かる力身す 生と意、カせ 一の自ン報、きこ社にに子とに。 徒り欲確をま 人正己	カの育成 を目指した を関する。	1:60%未満であった。 4:全教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 53 日 が い	4 4 4 3	ト】 「学いがえ を学すい合 を学すい合 4:90%以以未 4:80%未 4:80%未 1:80% 1:80% ででてる。 ででてえた。 「児】 ででてる。 ででてえた。 でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	3 86%	きらことかすら、	В	2	る考え方などを、しっかり身につくような教育をしていと思う。 () コロナ禍の中でたいへんな状況の中、充分な成果だ思う。 は調性など基本が学べている。 () 外国語教育について:世界的レベルで見ると、日本の語学レベルは低レベルにあると思われる。国際化の世界の中で、若年層の語学力を早急に向上させることを望む。 () 小学生全般に言えるが、教育に改生として注力されていくを望む。 () 小学生全般に言えるが、教えはたいへん大事であるただ個々の考える思考力向上教育を更に考慮していただ個々の考える思考力向上教育を更に考慮していた。 () コミュニケーションがとれない子どもたちが多い中で、協働力を感じる。 () 口び推進により、マット運動やとび箱などでもタブトを活用して学習しているところに、教員の方々の苦教意を感じる。 () コロナという状況の中、できないことからできるこへの考え方の発想の転換がすばらしいと思った。 () 子どもから学校が楽しいと聞く。子どもの育成につて充分な成果が出ていると思う。 () 「見童同士のコミュニケーション能力が非常に高く、生の導きにより課題解決ができている。
ーカ用もカかのな応も信け 童人学高な着。 どと感シ、能に等ら変やすのをま ・ひぶめ学さ もりやっ情力生、の化かる力身す 生と意、カせ 一の自ン報、きこ社にに子とに。 徒り欲確をま 人正己	した体験活動のでは、	3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60の株式であった。 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員の等の場上の教員が毎日行った。 1:60%未満であった。 4:全教員が毎日行った。 1:60%未満の数員が毎日行った。 2:60%以上の教員が毎日行った。 1:60%未満の数員が毎日行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 1:60%未満の数員が毎日行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 3:80%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2~3回知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:学期年に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:学期に2~3回知らせた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 3:80%以上が回答した。 3:80%以上の教員がした。 3:80%以上の教員がした。 3:80%以上の教員がした。 3:80%以上の教員がした。	4 4 4 3	「学いがえ を学すい合 をでし割 ・ 85%以以未 ・ 3:85%以以未 ・ 2:80%以以未 ・ 1:80%未 ・ 名 ・ ででてる」 ・ ででてえた ・ ででてえた ・ ででてえた。 ・ ででした。	3 86%	○ものづくり学習は理数教科を中心くない。	С		○ コレ相の中でたいへんな状況の中、充分な成果た思う。協調性など基本が学べている。 ○ 外国語教育について:世界的レベルで見ると、日本の語学レベルは低レベルにあると思われる。国際化の世界の中で、若年層の語学力を早急に向上させること要と思われるが、教育行政全体として注力されていくを望む。 ○ 小学生全般に言えるが、教えはたいへん大事であるただ個々の考える思考力向上教育を更に考慮していたい。 ○ コニューケーションがとれない子どもたちが多い中で、協働力を感じる。 ○ ICT推進により、マット運動やとび箱などでもタブトを活用して学習しているところに、教員の方々の苦のコロナという状況の中、できないことからできるこの子がもから学校が楽しいと聞く。子どもから学校が楽しいと聞く。子どもの育成につて充分な成果が出ていると思う。 ○ 子どもから学校が楽しいと聞く。子どもの育成につて充分な成果が出ていると思う。。 ○ 月童同士のコミュニケーション能力が非常に高く、生の導きにより課題解決ができている。
用も力かのな応も信け 童人学高な着。 どと感能に等ら変やすのをま ・ひぶめ学さ もりやり生、の化かる力身す 生と意、カせ 一の自、きこ社にに子とに。 徒り欲確をま 人正己	た体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定定者と学ぶ意欲の伸長を目指施 し、ICT機器を活用した授業を を導車する人権教育の推進た 機器を活用した授業を活用した授業を活用した を導車す育資料等を活用した を得重す育資料等を活用した を得重す育資料等を活用した を得重す育ら人権教育の推進 を担任を決定をいる。 とは、正ないの結果を計画、連動・では、正ないのでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	1:60%未満であった。 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上 (37	4 4 3	学習(学び合 と答 学習、学びる」 が楽た 4:90%以上 3:85%以上 2:80%以上 1:80%未 1:80%未 【児童 ア かしと ででてる」 「児童 す加と答	3 86%	が、会後該当学年や時数・具体の的な内容を検討する必要がある。 ○今年度、ICTの操作が法やが法やができないである。 ○今年度、ICTの操作が法やが表やアプリケー達成目標を示した。今後指導を保護を使した。今後指導を自身の人類を力量をある。 「会域に打機を導きした。」を表しては、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	С		の語学レベルは低レベルにあると思われる。国際化の世界の中で、若年層の語学力を早急に向上させることをとして注力されていくを望む。 ○ 小学生全般に言えるが、教育行政全体として注力されていくを望む。 ○ 小学生全般に言えるが、教えはたいへん大事であただ個々の考える思考力向上教育を更に考慮していたに、3 ニーケーションがとれない子どもたちが多いで、協働力を感じる。 ○ ICT推進により、マット運動やとび箱などでもタブトを活用して学習しているところに、教員の方々の苦熱意を感じる。 ○ コロナという状況の中、できないことからできる。○ つの考え方の発想の転換がすばらしいと思った。○ 子どもの育成にて充分な成果が出ていると思う。 ○ 児童向こかの発想の転換がすばらしいと思ったで、公児童台により課題解決ができている。 ○ 「UTで、日本の事また体育指導に用いられるのいと思う。ただし、その基礎にある理論が身につくよのいと思う。ただし、その基礎にある理論が身につくよのいと思う。ただし、その基礎にある理論が身につくよのいと思う。ただし、その基礎にある理論が身につくよのでは、大きないで、日本のでは、大きないで、日本のでは、大きないで、日本のでは、大きないで、日本のでは、日本ので、日本のでは、日本ので、日本ので、日本のでは、日本ので、日本のでは、日本ので、日本のでは、日本ので、日本ので、日本ので、日本のでは、日本ので、日本ので、日本ので、日本ので、日本ので、日本ので、日本ので、日本ので
も力かのな応も信け 童人学高な着。 どと感に等ら変やすのをま ・ひぶめ学さ もりやと、の化かる力身す 生と意、力せ 一の自きこ社にに子とに。 徒り欲確をま 人正己	しする。 I C T 機器を活用した授業を実施 で T 機器を活用した授業を実施 で T 機器を活用した授業を実施 を 尊 教育活用した投業を育育 のの人。	透用した物以上の止焼致員の週1回以上活用したり、80 0%以上の止焼致員の週1回以上活用し土1:60 0%未満であった。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 2:60 0%以上で行った。 1:60 0%未満であった。 4:全教員で行った。 1:60 0%未満であった。 4:全教員で行った。 1:60 0%未満であった。 4:全教員が毎日行った。 1:60 0%未満であった。 4:全教員が毎日行った。 1:60 0%未満であった。 4:全教員が毎日行った。 2:60 0%以上の教員が毎日行った。 1:60 0%未満の教員が毎日行った。 2:60 0%以上の教員が毎日行った。 1:60 0%未満の教員が毎日行った。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80 0%以上で行った。 1:60 0%未満であった。 4:学期に2~3 回知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:学期に2~3 回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:学期に2~3 回知らせた。 3:常0 0%以上の教員が働きかけた。 1:60 0%以上の教員が働きかけた。 3:80 0%以上の教員が働きかけた。 3:80 0%以上が回答した。 3:80 0%以上が回答した。 3:80 0%以上が回答した。 4:全教員が回答した。 3:80 0%以上が回答した。 3:80 0%以上が回答した。 3:80 0%以上が回答した。 3:80 0%以上が回答した。 3:80 0%以上の教員が働きかけた。	4 4 3	い)をすること が楽まま 4:90%以上 3:85%以上 2:80%以上 1:80%未 【児童539名回 【児童 かんした 下すかしを ででていた ででてたま	86%	ケー速などを系統立て ・一速ない。今後はICT機能 ・一速ない。今後はICT機能 ・一速ない。今後はICT機能 ・一速ない。今後はICT機能 ・一速ない。今後はICT機能 ・一速ない。今後はICT機能 ・一速ない。一点では「大きなのをした」を ・一を担います。 ・一を担います。 ・一を担います。 ・一をした。 ・一をした。 ・一をした。 ・一を地でした。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	С		要と思われるが、教育行政全体として注力されていくを望む。 〇 小学生全般に言えるが、教えはたいへん大事であただ個々の考える思考力向上教育を更に考慮していたたい。 〇 コミュニケーションがとれない子どもたちが多いで、協働力を感じる。 ○ ICT 推進により、マット運動やとび箱などでもタブトを活用して学習しているところに、教員の方々の苦熱意を感じる。 ○ コロナという状況の中、できないことからできる。 ○ つコナという状況の中、できないことからできる。 ○ 予どもから学校が楽しいと聞く。子どもの育成にて充分な成果が出ていると思う。 ○ 児童同士のコミュニケーション能力が非常に高く、生の導きにより課題解決ができている。 ○ ICT機器は、動画など児童が興味を引くコンテンツ育的にも有効かと思う。また体育指導に用いられるのいと思う。ただし、その基礎にある理論が身につくよのことでは、表別を記慮してほしい。
かのな応も信け 童人学高な着。 どと感ら変やすのをま ・ひぶめ学さ もりやの化かる力身す 生と意、力せ 一の自社にに子とに。 徒り欲確をま 人正己	する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を を目指し、権教育育の担した 授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力にと育務を活用した 授業を実施する。 体力・ストの結果を踏まえ体がいたと育務を を関連運動や「一実践する。 を持調やに「可数を実践する。 をもいたでするのでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、	2:00%以上の比別教員が適り回以上活用し 1:60%未満であった。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員が毎日行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 1:60%未満の教員が毎日行った。 1:60%未満の教員が毎日行った。 1:60%未満の教員が毎日行った。 3:80%以上で行った。 1:60%以上で行った。 2:60%以上で行った。 2:60%以上で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満の教員が働きかけた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:学期に2~3回知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:学期に10は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:学期の世できなかった。 4:学期の世できなかった。 4:ドカボルエーエルペンの山所で主教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 3:80%以上が回答した。 3:80%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が働きかけた。	4 4 3	えた割合 4:90%以上 3:85%以上 2:80%以上 1:80%未 【児童539名回 「児童ケート」 「中かしてででいる」と ででいた割	86%	の系統的な指導と今までの指導実践 きもとに、経験にして指導を行う。 一番月の人権に、関すを月日標に即しして指導を行う。 一番月の人権に、関すを月日本後ものである。 一番月の人権の人権の人権の、会後も学行の。 に指し、大性の、大性の、大性の、大性の、大性の、大性の、大性の、大性の、大性の、大性の	D	14	○ 小学生全般に言えるが、教えはたいへん大事であただ個々の考える思考力向上教育を更に考慮していたたい。 ○ コミュニケーションがとれない子どもたちが多いで、協働力を感じる。 ○ ICT推進により、マット運動やとび箱などでもタフトを活用して学習しているところに、教員の方々の考熱意を感じる。 ○ コナという状況の中、できないことからできる・への考え方の発想の転換がすばらしいと思った。 ○ 子どもから学校が楽しいと聞く。子どもの育成にて充分な成果が出ていると思う。 ○ 兄をしたいきないと思う。 ○ 児童同士のコミュニケーション能力が非常に高く生の導きにより課題解決ができている。
のな応も信け 童人学高な着。 どと感変やすのをま ・ひぶめ学さ もりやれかる力身す 生と意、力せ 一の自にに子とに。 徒り欲確をま 人正己	を目指し、 を目指し、 を目指し、 を放っています。 を活動のには、 を活動のには、 を活動のにとなっていた。 を活動のには、 を活動のには、 を活動のには、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をでいた。 では、 のいたがら学が、場面を設定している。 学では、 のいたがら学が、場面を設定している。 学では、 のいたがら学が、場面を設定している。 学では、 のいたが、 ででは、 ででは、 のいたが、 ででは、 でですでは、 でででででででででで	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 4:全教員が毎日行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 4:全教員が毎日行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 4:全教員が毎日行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 3:学期毎に知らせた。 3:学期毎に知らせた。 3:学期毎に知らせた。 3:学期毎に知らせた。 3:学期毎に知らせた。 4:対象であった。 4:対象であった。 4:対象であった。 4:対象であった。 4:対象であった。 4:「おおむれできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 1:60%以上が回答した。 1:60%以上が回答した。 3:80%以上が回答した。 3:80%以上が回答した。 3:80%以上が回答した。 3:80%以上が回答した。 3:80%以上が回答した。	4 4 3	4:90%以上 3:85%以上 2:80%以上 1:80%未満 【児童539名回 答】 【児童でンケート】 「すかしている」とを記している」とのではいる。		た指導や・朝の人権タイムを生かして指導や・朝の人権タイムを生かしての実態に合かせた指導を継続してしっての実態に合かせた指導を継続してしった。	D	14	○コミュニケーションがとれない子どもたちが多いで、協働力を感じる。 ○ICT推進により、マット運動やとび箱などでもタフトを活用して学習しているところに、教員の方々の意動意を感じる。 ○コロナという状況の中、できないことからできる・つの考え方の発想の転換がすばらしいと思った。 ○子どもから学校が楽しいと聞く。子どもの育成にて充分な成果が出ていると思う。 ○児童同士のコミュニケーション能力が非常に高く生の導きにより課題解決ができている。
応も信け 童人学高な着。 どと感すのをま ・ひぶめ学さ もりやる力身す 生と意、力せ 一の自子とに。 徒り欲確をま 人正己	授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全育体計画を作成し、計画に基づいた体学級一学で成一取組」運動や「一学級一学送」運動を実践する。 学び感動のといれて、	2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員が毎日行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 2:60%以上で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:対象となる学数(全教員)で行った。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:デ制家ご軍・王吹への世所を主教員が働きかけた。 4:「おおむれできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%以上が回答した。 3:80%以上が回答した。 3:80%以上の教員が働きかけた。 4:全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 3:80%以上が回答した。 3:80%以上の教員が見た。 3:80%以上の教員がした。	4 4 3	3:85%以上 2:80%以上 1:80%未満 【児童539名回 答】 【児童でンケート】 「すかんでで授業 に参」と答えた割		の実態に合わせた指導を継続して行う ○体カー向上全体計画が教員間跡が の場合にでいた。運動立てを請したことに成果を感じた。実年度較するとに成果を感じた。ま年年度較するととで本校児童の実態を把握し、といるといるといる。して協働教員間で効果的な事故を担当を表しているといる。となるとなるとなる。となるとなる。となるとなる。となるとなる。となるとなるとなる。となるとなるとなる。となるとなるとなる。となるとなるとなる。となるとなるとなる。となるとなるとなる。となるとなるとなるとなるとなるとなるとなるとなる。となるとなるとなるとなるとなるとなるとなるとなるとなるとなるとなるとなるとなると	D	14	○ICT推進により、マット運動やとび箱などでもタフトを活用して学習しているところに、教員の方々の意意を感じる。 ○コロナという状況の中、できないことからできるへの考え方の発想の転換がすばらしいと思った。 ○子どもから学校が楽しいと聞く。子どもの育成にて充分な成果が出ていると思う。 ○児童同士のコミュニケーション能力が非常に高く生の導きにより課題解決ができている。 ○ICT機器は、動画など児童が興味を引くコンテンツ育的にも有効かと思う。また体育指導に用いられるのいと思う。ただし、その基礎にある理論が身につく。配慮してほしい。
·も信け 童人学高な着。 どと感のをま · ひぶめ学さ もりやつり 生と意、カせ 一の自とに。 徒り欲確をま 人正己	体計画を作成し、計画に基づいた体育 指導や「一動を作成し、計画に基づいた体育 指導や「一数和」運動や「一学級 一実践」運動を実践関係を豊かにする 「協働的学がら学い場面を設定している。 「な場合いながら学ぶ場のとしている。 学でを深め、人間取り入れ、児童している。 学でありますが、場合にはまずきであり、 ととまずきであり、大きで見った。 学であり、数学シートで児童・生徒はずきでいる。 学の情報を実施する。 学の情報を実施する。 学の情報を実施する。 学の情報を実施する。 学の情報を実施する。 学の情報を実施する。 学の情報を実施する。 と、と、で、と、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員が毎日行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 1:60%未満の教員が毎日行った。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 3:学期毎に知らせた。 3:学期毎に知らせた。 3:学期毎に知らせた。 3:学期毎に知らせた。 3:学期毎に知らせた。 3:学期毎に知らせた。 3:学期毎に知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:対象で重、工座でソリ山所で主教員が働きかけた。 1:60%以上の教員が働きかけた。 4:「おおむれできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 1:60%以上が回答した。 1:60%以上が回答した。 3:80%以上が回答した。 3:80%以上が回答した。 3:80%以上の教員が働きかけた。	4 4 3	2:80%以上 1:80%未満 【児童539名回 答】 【児童アンケート】 「すすんでで授業 に参」と答えた割		かりと周知されていた。運動並びタ イムの実施と環境係じりの手。文を講は じたことに成果を尽いの結果を把握し、 のこれでないのは、 のことで本校児童の実態を把握し、 のこれでのないでいく。 のこれでのないでいく。 のこれでのでいく。 のこれでのでいる。しかは、 のこれでのである。しかし、なき は働めた。とは、 のでき習い効果的な取組を共通理解できま で学習かルテを活用と、学期毎の過れまできま で学習かルテを活用と、学期毎の過れまできま で学習かルテを活用をで伝え、 に児童一人一人と確認としまる に児童一人一人と確認しまる のは、学別末の保護者 がは、学別末の保護者 がは、学別末の保護者 がに、学別末の保護者 がは、学別末の保護者 がに、学別末の保護者 がに、学別末の保護者 がに、学別末の保護者 がに、とない、 のとせた。 のとせたた。 のとせたた。 のとせたた。 のとせたた。 のとせたた。 のとせたた。 のとせたた。 のとせたた。 のとせたた。 のとせたた。 のとせたた。 のとせたた。 のとせたた。 のとせたた。 のとせたたをなた。 のとせたた。 のとせたたをななななななななななななななななななななななななななななななななななな		14	熱意を感じる。 〇 コロナという状況の中、できないことからできる - への考え方の発想の転機がすばらしいと思った。 〇 子どもから学校が楽しいと聞く。子どもの育成にて充分な成果が出ていると思う。 〇 児童百十のコミュニケーション能力が非常に高く生の導きにより課題解決ができている。 〇 ICTの活用で、個別指導もできるようになり、底」
け 童人学高な着。 どと感ま ・ひぶめ学さ もりや 一の自 徒り欲確をま 人正己	指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 「連動を実践する。 「協働的学が場面を設定している。 学習のよりでは、 「学習のようでは、 「学習のようでは、 「学習のようでは、 「学習のは、 「学習のは、 「学習のは、 「学習のは、 「学習のは、 「学習のは、 「学習のは、 「学習のは、 「学習のに、 「学習のに、 「学習のに、 「学習を表示できる。」 「学習を表示できる。」 「学習を表示できる。」 「学習を表示できる。」 「学習を表示できる。」 「学習者できる。」 「学報音を実により、 「学習者できる。」 「学報音を実により、 「学報音を表示できる。」 「学級者できる。」 「学級者できる。」 「学級者できる。」 「学級者できる。」 「学級者できる。」 「学級者できる。」 「学級者できる。」 「学級者できる。 「学級者できる。」 「学級者できる。」 「学級者できる。」 「学級者できる。」 「学級者できる。 「学級者できる。」 「学のは、 「学	2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員が毎日行った。 3:80%以上の教員が毎日行った。 2:60%以上の教員が毎日行った。 1:60%未満の教員が毎日行った。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:対別をびきなかった。 4:対別をびきなかった。 4:対別をびきなかった。 2:60%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以上の教員が働きかけた。 3:80%以上が回答した。 3:80%以上が回答した。 1:60%以上が回答した。 1:60%以上が回答した。 3:80%以上の教員がした。 3:80%以上の教員がした。	4 4 3	【児童539名回答】 【児童アンケート】 「すすんで授業に参加している」と答えた割		じたことに成果を感じた。来年度は 前年度の体力テストの結果を比較す ることで本校児童の実態を把握し、 のこれまでの校内研究を通して協働 の学習は浸透している。しかし、でき の学習が現まりな取組を共通理解でき できずの果的な取組を共通理解でき できずかルテを活課題できるのでき が成立した。 に児童一人一人と確認した。 の「学期は、学期本の保護者面談にて チェックシートを提示し、達成状況を 知らせた。 2学期からは、チェック		14	○子どもから学校が楽しいと聞く。子どもの育成にて充分な成果が出ていると思う。 ○児童同士のコミュニケーション能力が非常に高く生の導きにより課題解決ができている。 ○ICT機器は、動画など児童が興味を引くコンテンツ育的にも有効かと思う。また体育指導に用いられるいと思う。ただし、その基礎にある理論が身につく。配慮してほしい。 ○ICTの活用で、個別指導もできるようになり、底」
 人学高な着。	「協働的学習」を取り入れ、児童が関わり合いながら学ぶ場面を設定している。 学問カルテを基に児童で生徒と面談と、一人ひとりの背導する。 学の方法について、指導する。 学習神助学到達度をステップ学習チェ知らせる。 学習補助員等による 学習補助員等による 学習補間を実施する。 伊業改善推進プランを、授業に生かす。 「ここれの活形でと協働うの。 「以来でする。」 「以来でする。 「以来でする。」 「以来でする。 「以来でする。」 「以来でする。 「以来により児童一人に個別を選挙する。」 「以来でする。」 「以来により児童一人に個別を選挙する。 「以来によりり児童一人に個別を選挙する。」 「以来によりり見かった生かまた。」 「以来でする。」 「は、おり、社会のルールや	3:80%以上の教員が毎日行った。 2:60%以上の教員が毎日行った。 1:60%未満の教員が毎日行った。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 3:学期毎に知らせた。 3:学期毎に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 ***河豚元里・エモペンの口痛を主教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以上の教員が働きかけた。 4:「おおむれできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 1:60%以上が回答した。 1:60%未消であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。	4 3	答】 【児童アンケート】 「すすんで授業に参加している」と答えた割		継続して取り組んでいく。 ○これまでの校内研究を通して協働 的学習は浸透している。しかし、教 員間で効果的な取組を共通理解でき ・学習カルテを活用と、学期毎の通知表 ・学習カルテを活用と、学期毎の通知表 ・パイスを面談によって伝え、評価と共 に児童一人一人と確認した。 ・1 学期は、学期末の保護者面談にて チェックシートを提示し、達成状況を 知らせた。 2 学期からは、チェック		14	○ 児童同士のコミュニケーション能力が非常に高く 生の導きにより課題解決ができている。 ○ ICT機器は、動画など児童が興味を引くコンテンツ 育的にも有効かと思う。また体育指導に用いられる いと思う。ただし、その基礎にある理論が身につく。 配慮してほしい。 ○ ICTの活用で、個別指導もできるようになり、底」
 人学高な着。	る。 学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつる。 学数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。 学習補助員等による第数・数学・英語の補習を実施する。 「とての活用により児童一人一人に個別最適な学びと協働的な学びを保障する授業づくりを行う。 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや	1:60%未満の教員が毎日行った。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 1:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4: 対象元里・王吠・ツロルで生気泉が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以上の教員が働きかけた。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 1:60%以上が回答した。 1:60%以上が回答した。 3:80%以上が回答した。 3:80%以上の教員で行った。	4 3	【児童アンケート】 「すすんで授業」に参加している」と答えた割		具間で効果的な取組を共通理解できまったが、地方を活用し、学期等の追加表 ・学習カルテを活用し、学期等の追加表 を渡す際に重点課題や学習方法のアド バイスを面談によって伝え、評価と共 に児童一人一人と確認した。 ・1 学期は、学期末の保護者面談にて チェックシートを提示し、達成状況を 知らせた。2 学期からは、チェック	Α	14	育的にも有効かと思う。また体育指導に用いられるのいと思う。ただし、その基礎にある理論が身につく。配慮してほしい。 〇 ICTの活用で、個別指導もできるようになり、底」
 人学高な着。	し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 1 CTの活用により児童一人人に個別最適な学びと協働的な学びと協働的な学びと協りのできないとなりを行う。 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや	3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%以上で行った。 4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 3:学期毎に知らせた。 1:お知らせできなかった。 ****アダボアエーエー・アンのは、アンのでは、アン	3 4	ト】 「すすんで授業 に参加してい る」と答えた割		を渡す際に重点課題や学習方法のアド バスを面談によって伝え、評価と共 に児童一人人と確認した。 ○1学期は、学期末の保護者面談にて ・リンクシートを提示し、達成状況を 知らせた。2学期からは、チェック	A	14	育的にも有効かと思う。また体育指導に用いられるのいと思う。ただし、その基礎にある理論が身につく。配慮してほしい。 〇 ICTの活用で、個別指導もできるようになり、底」
 人学高な着。	習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 I C T の活用により児童一人一人に個別最適な学びと協働的な学びを保障する授業づくりを行う。 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや	1:60%未満であった。 4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4: ハッボ元里・王吹・ツロルボで王羽貝が脚さかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 1:60%以上の教員が働きかけた。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 1:60%以上が回答した。 1:60%以上が回答した。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。	3 4 4	ト】 「すすんで授業 に参加してい る」と答えた割		○1学期は、学期末の保護者面談にて チェックシートを提示し、達成状況を 知らせた。2学期からは、チェック	A	14	配慮してほしい。 ○ ICTの活用で、個別指導もできるようになり、底上
 人学高な着。	チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 1 CTの活用により児童一人一人に個別最適な学びと協働的な学びをでする授業づる授業づくりを行う。 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや	3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 **・対象が足・工味で・ツロボルを主教良が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以上の教員が働きかけた。 4:「おおむれできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 4:全教員で行った。 3:80%以上が回答した。 3:80%以上が回答した。 3:80%以上が回答した。	3 4 4	「すすんで授業 に参加してい る」と答えた割		知らせた。 2 学期からは、チェック			
 人学高な着。	に知らせる。 学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 I C T の活用により児童一人一人に個別最適な学びと協働的な学びを保障する授業づくりを行う。 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや	1:お知らせできなかった。 ** 対象元里・王使べいの山流で主教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%よ満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。	4 4	に参加してい る」と答えた割		シートをデータで配信し、保護者に学			○ クラス人数の低下により、教員の各児童への指導
·高な着。 どと感 ・	の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 ICTの活用により児童一人一人に個別最適な学びと協働的な学びを保障する授業づくりを行う。 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや	3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。	4 4	る」と答えた割		習状況を知らせた。 ○東京ベーシックドリルの結果に基づいて放課後算数補習の対象を抽出し、補	в		を期待したい。 〇 学習能力の高さは、先生の日頃のご努力、各家庭 教育の結果である。
な着。 どと感 学さ もりや ーの自 人正己	授業改善推進プランを、授業に生かす。 ICTの活用により児童一人一人に個別最適な学びと協働的な学びを保障する授業づくりを行う。 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや	1:60%以下の教員が働きかけた。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 1:60%以上が回答した。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。	4		3 88%	習を実施した。年6回の土曜算数補習 についても、対象児童に働きかけ、参 加を促した。			○ ICTの設定項目を半年で完了するなど、子どもたち - んで学習する環境を作っているところが評価できる。
。 もりや 一の自 人正己	す。 I C T の活用により児童一人一人に個別最適な学びと協働的な学びを保障する実づくりを行う。 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや	3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。	4		00%	●普段の授業や授業観察で授業改善プランを確認し、活用を推進した。特に学			○ タブレットを様々な場面で活用しているが、その 方に個人差があるのではないか。
ぎょう と さ と め も し の 自 し 人 正 己	ICTの活用により児童一人一人に個別最適な学びと協働的な学びを保障する授業づくりを行う。 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや	1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。	-	4:90%以上 3:85%以上 2:80%以上		期毎の授業観察では、教員による相互 参観、事後指導等で授業力の向上を 図った。	С		○ 文字や文章などを書けなくなる心配があり、今後 題となるのではないか。○ 学習意欲をのばし続けていくことが大切だと感じ
とりの正 感や自己	別最適な学びと協働的な学びを保障する授業づくりを行う。 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや	3:80%以上の教員で行った。	-			○情報活用に関しての教職員研修を行う と共に、指導計画を活用し、ICT機器や アプリケーションを授業に取り入れ、			- ○ 成果評価は「3」であるが、実質「4」と判断し る。
とりの正 感や自己	小中一貫による教育の視点に立った生 活指導の充実により、社会のルールや	2:60%以上の教員で行った。	4	1:80%未満		発達段階と学習観点を整理し、児童の 実態に即した授業改善を行った。今後	D		○ ICTを 1 ~ 6 年生まで有効に活用できている。○ タイピングの練習はとても大切だと思う。加えて様々なスクリーンタッチ形式の入力についても取り。
とりの正 感や自己	活指導の充実により、社会のルールや	2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員が行った。	1	【児童539名回		は、タイピングスキル等のICT機器の活用技能に基準を設け、系統性のある指 ・週に1回以上生活指導夕会を開いて			いただけるとよい。
とりの正 感や自己	1 A 2 C C C C C C C C C C C C C C C C C C	4: 至教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	4			教員間の情報共有を図ったり、目標 を掲示物で共有したりする等して取			
感や自己	を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修	1:60%未満であった。 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。	_	【児童アンケー		り組んだ。今後も継続し、決まりや ルールの徹底を図っていく。また、 小中一貫教育の会や生活指導主任会	Α	12	
定感、自	や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取	3:学期に1回(年間3回)以上行った。	3	F]		で同中学校区の小中学校と情報交換 をした。今後も交流した情報を指導			○ 道徳授業の内容は、児童が興味を持てるようなも してほしい。
ラン3 豊かない 青己どと自を心る来 定有をと他尊をなる 感めに生す成、柔 の の の の の の の の の の の の の	組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェッ	1:実施しなかった。 4:「粗職的対応ができた」と主教員が凹合し		「自分にはよい ところがある」		に生かしていく。 ○今後は、道徳授業推進のための伝達 講習を年6回以上実施できるよう計			○ 成長に必須の項目であり、善悪の判断能力の基本 につけさせることができていると思う。あわせて、 続、国家感の基本なども学び、「ほこり」と自信向.
	ク) の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応す		4	と答えた割合	3 85%	画を立てる。また、伝達講習で全校 が実施すべきことを押さえ、全クラ	В	2	なげられたらと思う。 ○ 不登校、いじめ問題をあまり学校から耳にしない
	3.	1:60%未満であった。 4:「粗糠的対応ができた」と主教員が凹合し		(大田教育ビジョン目 標値84%)		スが研修の内容を授業で実施できる ようにしていく。 〇月1回、不登校対策委員会を開			ほぼないと理解して正しいか? ○ 自己肯定感は、家庭によるところもあるが、昨年
	しめの木然防止、早期発見寺のための	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	4	4:90%以上 — 3:85%以上		き、不登校児童の情報を共有した。 また、個別の児童の報告書を作成し た。学年会で話題にしたり、養護教	С		数値が下がっているところが気になるので、ぜひ今行り組みをお願いする。 ○ 充分個性を伸ばしていただいていると感じている
	収組を 美胞する。	1:60%未満であった。				論に相談したりすることで組織的に 対応した。今後も急を要する場合や			謝する。 〇 引き続き、児童が自己肯定感が高まるよう授業改
	問題行動・不登校問題等にかかわる児	的に対応した。 3:必要な事業に対しておおかに安藤を美爬し	-	2:80%以上 1:80%未満		状況が思わしくない児童については、夕会でも情報を共有していく。			お願いする。 ○ 自己肯定感が持ちにくい、と言われている社会環 おいて、児童アンケートの結果が85%いうのは、と
な心をは		2: 必要な事業に対してのまり会議を実施しなかった 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せ	4	【旧音520名同		には確実に対応した。未然防止、早 期発見のために生活指導夕会等で情			- おいて、元里アンケートの結果が65%にすめば、と 気づけられる。田小の教育環境のすばらしさに改め、 したい。
くみま。	旧奈の白コを空蔵 白コを田蔵が言ま	ず、組織的な対応をしなかった。 4:全教員が行った。		答】		を通して、全校で期間や内容を揃え	D		
	るよう一人ひとりのよさを伝え、個性	2:60%以上の教員が行った。	4			導を行う。 ○月1回以上、運営プロジェクトでい			
ポーツに	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取	4:全教員で行った。		【児童アンケー		○年2回、「早寝・早起き・朝ごは			○ 食育について、箸を正しく持って食べることを身けるようにしてほしい。大人でも正しく持てない人;
しむ心の	対し、望ましい生活習慣についての意	2:60%以上の教員で行った。	4	F]		チェックを実施した。全校児童の現 状について集計した結果を「給食便	Α	14	多いように思える。小さい時から習慣化するように
成や、連 習慣の定		4:全教員で行った。		「運動をもっと		計した結果を基に、保護者に望まし			○ たいへんな状況の中、さすがだと思う。 ○ マラソンや長縄跳びなど、集中的に取り組む機会
た。着による体	して、食生活の充実・改善をねらいと した「食育」を推進する。	2:60%以上の教員で行った。	4	かすことが好		啓発していく。 ○栄養教諭の指導の下、給食委員会児	В		作っていただき、たいへんよいことだと思う。町でiる場所が昔よりなくなってきているので、学校でので体を動かしていただきたい。
、生涯に	体育的行事、部活動、休み時間など	4:全教員で行った。		き)」と答えた		スライドを作り、全学級で「食育」			- ○ 食育の向上・マナー教育、体力向上への取り組み ど、今後も続けていただきたい。
たって健 増進を図	様々な機会を通して運動習慣の確立を	2:60%以上の教員で行った。	4			○学期毎に短・長縄跳びやマラソンなどに集中して取り組む機会を設けた	С		○ コロナ禍で、外出が減り、家庭での食の意識の変が、運動能力の結果に結びついた結果ではないか。○ パラアスリートをお呼びして、間近で見てもらっ
意識の向		4:全教員で行った。		4:90%以上 3:85%以上		した遊び場を設定したりすること			するのは、子どもたちにとてもよい刺激になって、。 思う。今後も継続をお願いする。
をめるし す。	<u>会や場を設け、</u> きっかけづくりや習慣	2:60%以上の教員で行った。	4	2:80%以上		れ、朝学習の時間を利用し、運動遊	D		○ 家庭での取り組みの大切さを感じる。 ○ 先生方の新しい体育の取り組みと児童の取り組み 駅伝大会優勝という結果に結びつき、感謝申し上げ
		4:「おおむねできた」と全教員が回答した。				を実施し、結果を基に学級毎に課題			
		2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	ト】		を把握し、改善に努めた。保護者の 意見や要望は全教職員で共有し、ま	Α	11	
童・生徒 安全・安	授業改善セミナー等の研修成果を生か	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。	<u> </u>	「子どもたちに		た。より回答しやすくなるように、 デジタルによるアンケート回答に移			
に学校生		2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	とって分かりや		行した。 ○OJT研修として、主任教諭による ワークショップを年間4回計7講座	В	3	○ 授業の評価はすばらしいものだ。○ 研修の成果を授業に活かすように努力してほしい○ 物事の理解に、国語教育がしっかりなされるよう。
を送るた に、教員	各種研究発表会等の研究・研修の成果	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。		いる」に「とて	4	行った。他にも、全教員による実践 報告会を年2回行い、指導力の向上			う。 ○ いじめに関する保護者アンケート結果で「わから
指導力向と良質な		2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	も当てはまる」 と答えた割合	85%	に努めた。 ○指導教諭による模範授業を各教科 担当者で分担して参観したり、他校			い」と答えた方が14%ほどいたようなので、更なるり 広報を期待している。
育環境を		4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。	1	(大田教育ビジョン目標値65.59%)		の実践発表会に参加したりして、自 身の授業改善に生かした。	С		○ 保護者からも高い評価をいただき、引き続き推進 う。
くりま 。	おける特別支援教育を推進する。	2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4			運営プロジェクトで全教員で情報を 共有するとともに、月1回の特別支			-
			1	3:80%以上		援校内委員会でサポートルーム担当 教員と情報交換したり連携方法を確 認したりした。特別支援全体会を行	D		
	双目日標,子校經是月前, 法必需哪一			2:75%以上		い、全教員でも支援を要する児童に ついての情報共有を行った。今後			
校・家		3:学期に2~3回更新した。	4	【学校評価		年の保護者に教育目標・学校経営方針 を説明し、教育活動への理解と協力を			○ コロナの中、思うように活動ができないのに、よ
ラン 庭・地域が 担う役割な どを明確に	ことにより、積極的に情報を発信す	1: 更新しなかった。		保護者アンケート】		求めた。 ○学校支援地域本部「でんしょう応援	Α	14	やっていただいていると思う。 〇 学校支援地域本部「でんしょう応援団」との連携
		3:おおむね情報を提供した。	4			くスクールを開講・運営し、今年度は3 年振りに外部団体を招聘した講座も実			とてもおもしろいと思う。コロナ関係のため、地域 「祭りや各種会議が中止なったりしていたが(最近は ているが)、単に中止とするのではなく、他の方法
、地域に かれた教		1:情報を提供しなかった。		「学校は地域の 力(保護者含		あった。運営補助等で保護者100名の協力が得られた。家庭科のミシン補助ボ	В		をして実施するようにしてほしい。 〇 充分だと思う。
の実現を	て、地域力を生かした特色ある教育活	3:学期1回以上行った	4	む)を子どもた	3	ランティアとして保護者や外部人材の 活用し、教育活動の充実を図った。 ○毎月発行の学校・学年便りと毎週発			○ 地域での見守りの大切さを感じている。○ 今後の課題として、校舎建て替え期間の運動場制よる児童への運動へのご配慮を工夫をしていただき。
家 目指しま 庭 す。また 、		1:実施しなかった。		生かしている」		行の学級便りを電子配信し、利便性と 即時性の向上を図った。今後もペー			○ 学校、家庭、地域との連携が大切だと感じている○ コロナが落ち着いてきたので、今後はより地域と
万の連携	保護者会等の在り方を検討し、工夫改	3:学期1回は行った	4	と答えた割合		教育活動の発信を行っていく。 〇ホームページを活用し、継続して教	Ü		携を期待している。 〇 コロナ禍でも、たいへん努力していただいている
もを育て		2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。		4:90%以上		育活動を発信している(12月更新14回)。			」う。引き続きよろしくお願い申し上げる。 ○ 地域との共催であった「星空映画会」につき、形 えてもよいので、わくわくスクールなどで実現したし
仕組みを				3:85%以上 2:80%以上		各種アンケートの結果等を報告し、適 切な評価を受けるための情報共有を	D		校への愛着心、愛校心を育むような取り組みにできるい。
				1:80%未満		行った。 ○今後はさらに学校支援地域本部などを			
プンジス・。	なへ満なく。 ぱし成習にの、た増意をす 童安にをに指と育く。 校・うを、かの指。互深どのち心み 一むや慣よ向生っ進識め。 ・全学送、導良環り ・地役明地れ実しまのめ、希たをま ツ心、のる上涯てをのざ 生・校る教力質境ま 家域割確域た現また連未望豊は にの運定体なに健図向し 徒安生た員向なを がなにに教を ・携子	なべ満なく。 ポーロ では で は で で と で と で で と で で と で で で で で	1:6 0%を表演であった。	など、未への希望	など、未	など、未	など、大 宗	など、未	など、未

^{○「}成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価